

日本英語教育史学会 会報

319

2024 年 2 月 20 日

HiSELT Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 田邊祐司)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562
県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191
e-mail: membership@hiset.jp

会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)

ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873

ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第296回研究例会報告

2024 (令和 6) 年 1 月 20 日 (土), 第 296 回研究例会が Zoom を用いたオンラインの形態により開催されました。参加者は 18 名でした。

例会では 2 つの研究発表が行われました。最初の研究発表では、熊谷允岐氏 (茨城大学) が「日本における英語語彙教授法・学習法の再評価: 明治期刊行の資料を元に」というタイトルでお話しされました。続いての研究発表は、二五義博氏 (山口学芸大学) が「戦前の中学校英語教科書における CLIL の事例研究」というタイトルで発表を行いました。司会は馬本勉氏 (県立広島大学) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は熊谷氏, ②は二五氏の発表への感想, ③は会全体に対する感想です)。

<発表 1 の感想>

◆現代の語彙研究でもサポートされているような内容が明治時代から言及されていたとのこと、多くの資料を共有していただき大変勉強になりました。(匿名希望)

◆明治期の英語教授法書 14 冊を丹念に読み込み、うち 11 冊から語彙教授法・学習法について抽出し考察された貴重な研究で、知的興奮を味わいました。今後は雑誌論考などにも目配りされれば、一段と本格的な研究になると思います。語彙の研究では、教授法・学習法に加えて、英語教科書での語彙統制の考察も重要だと思います。外山正一らが編纂した『正則文部省英語読本』(1889: 明治 22) では、すでに厳格な語彙統制が行われており、EFL 環境の日本人学習者に合致する教科書が作られていました(小篠敏明ほか編著『英語教科書の歴史的研究』2004)。理論よりも実践が先行していたわけです。語彙研究の世界は深いですね。果敢な挑戦に期待しています。(みかん舟)

◆常々、英語教育史の中で重要と思われることがらを、第二言語習得論の観点から再評価できないものかと思っておりましたので、熊谷先生のご発表は大変刺激的で興味深いものでした。neglect されていたのは何だったのか、私自身の認識も深まったように思います。論と証拠はどちらが先でも、結局似通った主張に落ち着くものが多いように感じますね。そういう意味で、私たちは SLA 研究者との対話機会をもっと増やしてよいのかもしれない。熊谷先生のさらなるご研究に大いに期待したいと思います。(White Horse)

< 発表 2 の感想 >

◆現代 CLIL として定義されている内容が戦前の教材として使われていたことを事例として知ることができ、とても興味深いご発表でした。英語習得の観点、教科横断型による思考力の向上などの観点からも CLIL の実践は理想でありながら、質疑応答でもありましたように日本では実践の難しさを含め、今後も議論が深まることを期待しています。(匿名希望)

◆CLIL に近い方法論が、日本で古くから取り入れられていた一方で、海外のように実証研究の対象となっていなかった(エビデンスが重視されていなかった)という点が、とても惜しい歴史的事実だと思われました。元々そのような点を重視しないのが日本的な文化だったのかも知れません。いずれにせよ、当時から教育水準が高いと同時に、そのような画期的な方法論が認識されていたという点においては、とても誇らしいような、そんな気持ちにも至りました。とても興味深いご発表でした。(ポレポレ)

◆「CLIL は実は日本人が戦前から開拓していた」といった刺激的な提起に興味深く拝聴しました(もちろん「日本人が」か「日本人も」かは、今後の実証が必要でしょうが)。フロアからのご指摘にもありましたように、教科書の題材論レベルの議論と、実際の指導法までも含めた CLIL とをどう識別するかが今後の課題かと思いました。なお柗田與惣之助の『英語教授法綱要』(1909)とその発展形である『英語教授法集成』(1928)には「英語科と他教科との関係」に関する詳細な考察が書かれていますが、これらは本来、主に小学校教員を対象にしていますので、教科担任制の中等学校教員に応用する場合には注意が必要かと思えます。(みかん舟)

◆二五先生の一連のご研究を通じ、かつて日本で用いられた英語教科書の中に、CLIL 的な指導が可能な素材が数多く存在することを実感いたしました。その実践の記録が発掘されれば、教科横断による指導法やその効果がより鮮明に浮かび上がってくるものと思います。記録の入手が叶わないとしても、かつての教科書で CLIL 的な指導を行った場合の学習効果を調べることはできるかもしれませんね。今後も継続的なご研究を楽しみにしています。(White Horse)

< 会全体に対する感想 >

◆貴重な機会をありがとうございました。(匿名希望)

◆スムーズな運営に感謝です。出来成訓先生の遺著『日本英学者人名事典』の会員 2 割引特典についてもご紹介くださり、ありがとうございました。(みかん舟)

発表を終えて

熊谷 允岐 (茨城大学)

第 296 回研究例会では、大変お世話になりましたことを御礼申し上げます。本発表では、明治期の英語教授・学習法書に注目し、当時の日本で語彙教授・学習法がどのように議論され、発展の兆しを見せていたかについて報告を行いました。

ご指摘にもありました通り、明治期に議論されていた内容は、現代のような実証研究に伴うエビデンスが下敷きとされているわけではありませんでしたが、現代の語彙習得理論にも深く通ずる内容が取り上げられていたことは、注目に値します。日本人は、世界で応用言語学的な見地から語彙習得が盛んに研究される遥か以前から、英語を外国語として受容し、その習得に奮闘してきました。

いわゆる「英語の達人」が生まれたような英学全盛時代を経た一方で、日本人の英語力低下が叫ばれるようになる時期もまた迎えたからこそ、英語教授や学習法といった点により注目が集まったと言えます。一見すると負の側面とも思える歴史の一片が、現代の語彙教授・学習の基礎を築いたという点は、今後の語彙教授・学習の発展を前向きに検討する上での重要な示唆となりえます。

最後になりますが、ご参加の皆様方より有意義なご質問、ご意見をいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。本発表で学んだ点を踏まえ、今後も研究に励ませていただきます。

発表を終えて

二五 義博 (山口学芸大学)

日本英語教育史学会には3~4年前に入会し、全国大会の方では何回か発表しておりましたが、例会での発表は今回が初めてとなりました。短い時間の全国大会では、一般論にとどまることが多かったのですが、例会の発表時間は長いこともあり、一つひとつの事例についても詳細にお話することができました。まずは、このような素晴らしい機会を与えて下さり感謝申し上げます。

私はCLILを10数年にわたって研究してきましたが、本学会においては、これまで明治時代~昭和初期の小学校用国定英語教科書を主要な分析対象とし、少なくとも全記述の20%以上で他教科内容の活用がされており、現代の教科書にも見劣りしないほど教科横断的であったことを示してきました。その中で、他の校種にもCLILは存在したのではないかと考え、前回の全国大会から中学校の英語教科書にも範囲を広げ、今回「戦前の中学校英語教科書におけるCLILの事例研究」というテーマで発表した次第です。本発表では全国大会で触れられなかった事例と、2冊目の新たな教科書の事例に焦点を当てました。

今後の課題としては、さらに多くの中学校英語教科書のCLILの事例を積み上げていくことと、実際に教科書を使ってどのような授業がなされていたのかを可能ならば探ることです。後者については質疑応答の時にもご指摘いただきましたが、例えば図画工作の内容で実際に絵の具を使って色の配合までしていたかなどが分からなければ、研究は題材論のみにとどまるかもしれません。私は今回いただいた多くの貴重なご教示を踏まえつつ、明治時代~戦前のCLIL研究を継続していきたいと考えています。

日本英語教育史学会第 40 回全国大会 (広島大会) のご案内

先にメールでもご案内しておりますが、第 40 回全国大会を下記の通り開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

期 日 : 2024 年 5 月 18 日 (土)・19 日 (日)

形 態 : ハイフレックス (※) 一部プログラムは対面のみ

会 場 : 【対面】 県立広島大学サテライトキャンパスひろしま (広島市)

【オンライン】 Zoom

今回は記念すべき第 40 回の全国大会です。記念講演として、和歌山大学名誉教授で本学会名誉会長の江利川春雄氏にご自身の研究史を交えながら英語教育史研究の歩みと現状についてお話しいただく予定です。

「英語教育史研究の達成と未成」(仮)

江利川春雄氏 (和歌山大学名誉教授・本学会名誉会長)

また、出来成訓 (編著)・江利川春雄・竹中龍範 (校閲)『日本英学者人名事典』(港の人, 2024) に関する記念企画を実施予定です。

◆ 研究発表について

- ・大会での研究発表を募集いたします。発表希望者は **3 月 15 日 (金) まで**に以下のフォームからお申込みください。全国大会では積極的な採択が行われますので、どうぞ奮ってご応募ください。研究発表応募フォーム：<https://forms.gle/xNpfNWSZ1TqyXL4R9>
- ・発表形態を問わず、研究発表はプログラムで割り当てられた時間内に「リアルタイム」で行うものとします (事前に収録した発表動画の再生も可)。発表者入替え・質疑応答を含めて、発表時間は 30 分 (発表 20 分, 質疑応答 5 分目安) です。
- ・研究発表をお申込みの方には、ご発表の内容を 1,000 字程度にまとめた要旨の作成をお願いいたします (**4 月 12 日 (金) 必着**)。

◆ 大会へのご参加について

- ・大会参加のお申込みは、研究例会と同様、学会ウェブサイトから受け付けます。オンラインでのご参加をお申込みいただいた皆様には、Zoom ミーティングの ID とパスコードを通知します。
- ・大会参加費：会員・学生 無料 非会員 1,000 円
- ・大会参加申込み用オンラインフォームの URL を含む詳細につきましては、メール、および、次号会報にてお知らせいたします。
- ・大会プログラムにつきましては、次号の会報をお待ちください。

>> 事務局より

>> 10 月・11 月の理事会について

これまでの会報でお伝えしていなかった 2 回の理事会では、以下の件が話し合われました。先送りとなった案件が多くありましたが、いずれも 1 月の第 4 回理事会で議決されています。

2023 年度第 2 回理事会 2023 年 10 月 22 日 (日) 10:00~11:10 (オンライン)

(1) 全国大会について

日程を確認し、会場の候補について検討しました。また、記念講演を江利川春雄先生に依頼することを決定しました。

(2) 学会誌について

担当理事より投稿と査読の状況および書評とリプライにについて報告を受けました。

(3) その他

来年度の各種会合の形態について議論するとともに、事務的なことがらについて取り扱いました。

2023 年度第 3 回理事会 2023 年 11 月 18 日 (土) 11:00~11:50 (オンライン)

(1) 全国大会について

会場について再検討しました。

(2) 学会誌投稿規程の改正について

担当理事の提案を受け、次回以降の理事会において議決することとしました。

(3) 学会賞について

担当理事の提案を受け、次回以降の理事会において議決することとしました。

(4) 著作賞について

会長より 1 件の候補が挙げられていることが報告されました。

>> 第 4 回理事会を 1 月に理事会を開催

1 月 20 日 (土) 11 時より 12 時まで、2023 年度第 4 回理事会がオンラインで開催され、以下の件が話し合われました。

(1) 第 40 回全国大会について

本年 5 月に予定している第 40 回全国大会は、県立広島大学サテライトキャンパスひろしまで開催することを決め、実行委員会の原案にもとづきその概要を固めました。詳細は 3～4 ページをご覧ください。

(2) 紀要『日本英語教育史研究』第 39 号について

担当理事 (編集委員長) より編集の進捗状況について報告を受けました。例年通り、5 月の全国大会の際に発行の予定です。

(3) 学会誌投稿規程・学会賞規程の改正について

前回の議論を踏まえ、両規程の一部を改正することを決めました。詳細は 5 月の会員総会に報告します。

(4) 著作賞候補について

田邊会長より審査の進捗状況について報告を受けました。3 月末までには決定の見込みです。

(5) その他

『日本英学者人名事典』の出版と会員限定の割引について報告がありました。また、会の創立 50 周年に向けたプロジェクトについて提案がありました。その他、理事会の業務を円滑に進めるための事務的な事柄について議論しました。

(文責：事務局長)

>> 『日本英学者人名事典』の刊行と会員限定割引について

2024 年 1 月、港の人より『日本英学者人名事典』が刊行されました。これは本会初代会長の故出来成訓先生の編著によるもので、先生の遺作となる大著です。出版にあたっては、江利川春雄先生 (本会第 5 代会長)・竹中龍範先生 (同第 4 代会長) が校閲の労をとられました。会員のみならずまにはぜひとも座右に置かれ積極的にご活用くださいますようお願い申し上げます。

このたび、出版元のご厚意により、定価 41,800 円 (税込) のところ、本会の会員に限り 33,000 円 (税込、送料含) の特別価格を設定していただきました。最終ページの【購入方法】をご参照の上、どうぞお求めください。

>> 会費納入について (お礼とお願い)

会費の納入にご協力くださりありがとうございます。本会の会計年度は 4 月より翌年の 3 月ま

でとなっております。今年度および昨年度の会費を未納の方は年度末までにご送金くださいますようお願い申し上げます。

未納のみなさまへのご案内は順次お届けいたしますが、事務作業が遅延することもございます。ご心配な方は事務局までお問い合わせください。

なお、2年連続して会費の納入がない場合には退会の手続きを取らせていただくことになっております。該当の方には年度末までに連絡申し上げますので、よろしくご対応くださいますようお願いいたします。

年会費 一般：5,000 円／学生：3,000 円（学生会員は初年度に限り無料となります）

送金先 【1】 ①郵便局で払込取扱票をご利用の場合

②ゆうちょ銀行の総合口座よりご送金の場合

→ゆうちょ銀行 [振替口座] 00150-3-132873

【2】 ゆうちょ銀行を除く金融機関の口座よりご送金の場合

→ゆうちょ銀行〇一九（ゼロイチキュウ）店 [当座口座] 0132873

》この先の研究例会・全国大会

◆ 第 297 回研究例会 2024 年 3 月 16 日（土） オンライン開催

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要（100～200 字程度）、(4) 使用予定機器、の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日（9 月発表希望であれば 6 月 10 日） までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

》英語教育史フォルダ

◆若林俊輔（著）、若有保彦（編）『若林俊輔先生著作集⑥：評価論、大学英語教育、教員養成・教師論他』が一般財団法人語学教育研究所より刊行された。定価は 1,500 円（税込）。

本書は、本会の会員でもあった若林俊輔先生の評価論、大学英語教育、教員養成・教師論等に関する論考 43 本を収録したものの。全 5 章で構成され、各章について若林先生の教え子 5 名が解説を行っている。本書は一般の書店では販売しておらず、語学教育研究所の次の URL から注文が可能。送料は 1 冊につき 200 円。

http://www.irlt.or.jp/modules/liaise/index.php?form_id=12



若林俊輔先生 著作集 ⑥

評価論、大学英語教育、教員養成・教師論他



一般財団法人 語学教育研究所

日本英語教育史学会 第 297 回 研究例会

日 時： 2024 年 3 月 16 日 (土) 14:00~17:00

オンライン開催 (申込方法については、学会ウェブサイト (<http://hiset.jp/>) 内の「オンラインによる研究例会参加方法」をご参照下さい。)

研究発表

「神田乃武の英語教授観の再検討：『ナチュラル・メソッド』との関係を中心に」

惟任 泰裕 (大阪成蹊大学)

これまで神田乃武 (1857~1923) は、わが国における「ナチュラル・メソッド」の紹介者として英語教育史上に記述されてきた。しかしながら神田は、「ナチュラル・メソッド」として体系化された教授法を主張したわけではなく、「ナチュラル・メソッド」という言葉自体も曖昧な概念である。そこで本研究では、「ナチュラル・メソッド」との関係を中心に、その英語教授観を再検討し、英語教育史上における新しい神田像の描出を試みたい。

研究発表

「小川芳男のラジオ講座『基礎英語』

山田 昌宏 (本学会会員)

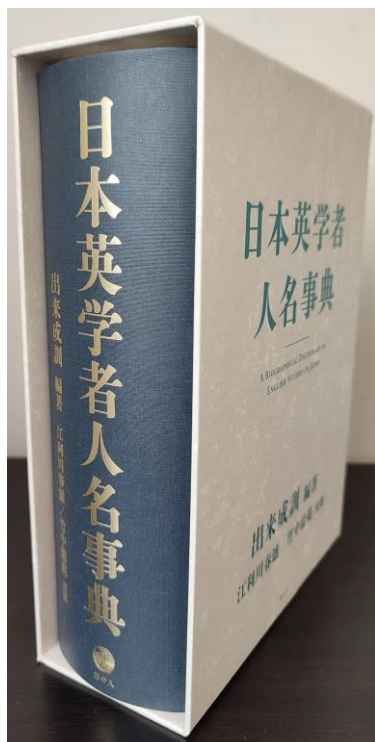
小川芳男は昭 21 年から昭 27 年まで NHK ラジオ「基礎英語」を担当した。多くの英語教育に関する著書のある同氏の考える基礎英語に関する所見を知りたいと思っていたが、幸い昭 25 年 4 月号から昭 26 年 3 月号までの NHK ラジオ「基礎英語」のテキスト 12 冊が手に入ったので、分量、形式、内容、難易度、語彙、語法・文法等について分析してみることにした。なお、比較するために、当時新制中学校で多く使用された"Jack and Betty 1"を用いた。

参加費： 無料

問合せ： 日本英語教育史学会例会担当 (reikai@hiset.jp)

EDITOR'S BOX 今年は元日に能登半島地震、2 日に羽田空港での航空機衝突事故と、立て続けに大きな災害や事故が発生しました。／2019 年の 12 月から始まったコロナ禍が一段落し、ようやく平穏な一年になりそうだった矢先のことでした。／これらの出来事に衝撃を受けた人々も多かったことと思います。／被災された方々が、少しでも早く元の日常生活を送れるようになることを祈るばかりです。／まだ終わっていませんが、今年の冬は例年と違い、秋田でも雪があまり降りませんでした。／雪寄せも 12 月に 1, 2 回行っただけで、除雪車を見ることはほとんどなく、車の運転も神経を使わずに済んでいます。／特にここ数日は暖かく、2 月に摂氏 15 度を超えたのは私が秋田に来て初めてかもしれません。／地球温暖化は気になりますが、雪寄せの手間が省けたり、光熱費が節約できてうれしいというのが、ここ数年の電気代等の高騰に苦しんで、目先の利益にとられがちな雪国の庶民の率直な感想かと思えます。(若)

© 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室 wakaari@nifty.com)



日本英学者人名事典

A Biographical Dictionary
of English Studies in Japan

出来 成訓 編著
江利川 春雄・竹中 龍範 校閲

ISBN : 9784896294293
出版 : 港の人 (2024 年 1 月)
価格 : 41,800 円 (税込)

日本英語教育史学会会員限定 特別割引価格

33,000 円 (税込, 送料含)

【出版元】



港の人

神奈川県鎌倉市由比ガ浜 3-11-49

<https://www.minatonohito.jp/>

【購入方法】

1. ウェブサイトの「本のご注文」にアクセスしてください。
2. お問い合わせフォームに必要事項を入力の上「お問い合わせ内容」の欄に書名・冊数と日本英語教育史学会の会員である旨を明記して送信してください。
3. 折返し、代金とゆうちょ銀行の振替口座がメールで連絡されます。
4. 発送は入金の確認後となります。振込手数料は各自でご負担ください。